



口七九
2067
3

門口
2.067
巻 3

十卷の巻

けな

松江在常



續人右巻に女中の巻

釈法忠

一家の男子なくむは先は解以て
家とてうぞくはと世とて教多に
了れりされど女の及はくわら
む之なるおつてはけりてそなく
海は人切らやまひあふさま
あふふ母とのけりさ海とるゆふ家

もなると娘ハ人しあひ入聲とてそ
くよしうやまひきこまぬ音ハ
さだ（い）の朝（あ）あしよりおき登けりし
よのう心よむ（い）は幾日（い）もなうて飛
なぬるの付あつとぬんよをねむりし
入聲のふししてとやうく屋敷（い）の家
わう家（い）をねて福（い）やうよとをこよとこの
うら（い）手（い）とそれういやぬしあていんご

よひおとらひしきまおひしとていん
ともつよはあしあけり是大成（い）ひとて
として女の及（い）はひとて入聲（い）子（い）
女房（い）の親（い）より貴（い）家（い）替（い）ハ支（い）ぬ（い）清（い）れ
ぬれと始（い）の家（い）替（い）うら（い）半（い）おとすのう
りねと（い）川（い）ふ（い）き（い）つ（い）ふ（い）身（い）と（い）ぬ（い）れ（い）と
つ（い）ひ（い）て（い）あ（い）が（い）身（い）と（い）ふ（い）お（い）つ（い）の（い）お（い）ね（い）と
家の（い）は（い）重（い）義（い）向（い）の（い）つ（い）と（い）先（い）と（い）ふ（い）お（い）よ（い）つ（い）ぬ

漢（い）字（い）書（い）

うねをそと女の身とていつうもたれんか
 やまぐらふつゝのそとにまのて身とそ
 そくゝ家内は出まといふまらおひの思
 義なりまゝ御大名様侍もさういふ様と
 介此を系の出方様とて衆を此知り
 たりといは地切系は技おとけか増木
 されはかお増うお續のり方様下されの
 御は家カうとてま回前よそは用向

信有らまもた回此とありぬと人のつは
 となりそふそのおつと成たぬかとも大切
 つつうわのまおしこのなまうまう
 事しひ家よおつらまなれとて秋の志
 とか女のおまうとめあへひすあん
 よも成つゝおしこのなまなれ中
 ねらうひのまおつらまなれとて秋の志
 まひまぬとてまおつらまなれとて秋の志

養子...

一まづ女のらうしげりてもらしめぬと
 ちよとせむん心も内増て人の目くら
 ちよと氣地くくくは款あふるなり
 女中のあひひは長波老のやられけ
 海のとくらひらきひ又の深川深くさ
 ぞしーも月くらもつらとつげせむ
 出合のまきやらひもさむとやひし
 いはのやう身ありたからつらあき

女中の他は人へらうて友はさむく
 かくーおやがらうまじはあたらひ父母
 兄弟は目と志のひくみあらーのし
 うひもさひひさふしれくよして
 ちよとらうらうらうらあーあーあ
 ちよとらうらうらあーあーあ
 ちよとらうらうらあーあーあ
 ちよとらうらうらあーあーあ

公はうつりやましくかへりておのゝこもいふも
あまのこもやまのこもいふもいふもいふも
花よ風よいふもいふもいふもいふもいふも
り何れもいふもいふもいふもいふもいふも
若^{かん}好の^ご記まくなはるる中^{なか}がまよ
ういぬけぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬか
大^あ半の女房^{むすめ}も明^あるはるはるはるはるはるはる
まやまよくのこもいふもいふもいふもいふも

がまよまよのこもいふもいふもいふもいふも
たがういふもいふもいふもいふもいふも
おまよまよのこもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふも
つふ^あ大^あ森^{もり}た^たま^まの^のこもいふもいふもいふも
武士^{ぶし}とたがういふもいふもいふもいふも
ち小^こ代^{しろ}いふもいふもいふもいふもいふも
人と^{ひと}いふもいふもいふもいふもいふもいふも

ねー志るねの女は化生けいせいよちうらんよまうに
 ぞくおりうらうらおとれつーいあふあふ
 うまううまうくおつーままおとくはまてて味あじ
 あーりーままかかぬ女のわいわいーとまま
 ねんね女仲るねんねううままててにおおまま
 およひーううううううね公ねかかくく
 ありーままううななふふーままああままああ
 うたうたととゆゆりりねねー公公ののいいままううーーいいまま

なくまなままののねねよよままううああららいいののああららまま
 神かみののけけののねねめめーくくねねののいい
 ううままいいなんなんねねくくすすねねののねねううららいい
 けけかりかりーままーーままららいいままああーー
 一一とと列りゅうねねののいいかかままああーーねねののままののららまま
 いいああーーいいててううせせままいいららううかかああままいい
 ともともじじくくゆゆららううままいいままのの書かきいいけけーーままああ

心ゆくまゝに一もたらなるを貞とやうく
まじりてひくあさうしなれど歌もまじり
うけつらりぬしに天子は十二人おたれ出大
名は九人さゆおよ二十人のつはらり女
七つのおうらうらなるおつらうらなる歌
しきうらうらなるおつらうらなる歌
のいれぬなるうらうらなるおつらうらなる
うらうらなるうらうらなるおつらうらなる

うらうらなるうらうらなるおつらうらなる
うらうらなるうらうらなるおつらうらなる
のうらうらなるうらうらなるおつらうらなる
うらうらなるうらうらなるおつらうらなる
うらうらなるうらうらなるおつらうらなる
うらうらなるうらうらなるおつらうらなる
うらうらなるうらうらなるおつらうらなる
うらうらなるうらうらなるおつらうらなる
うらうらなるうらうらなるおつらうらなる
うらうらなるうらうらなるおつらうらなる

養

下

かのうほいこゝろをいふもなりぬばり
かりありしも秋あきの葉よ乃よ祿ろくなきあらなり
袂たもとこころいふことありしよすめと
あつちりつ福ふくせぬまふともくとや
かこしあつちりつ松しょうく風かぜの音ね
こころ麻あしの音ねこころいふこと
こころいふこといふこといふこと
こころいふこといふこといふこと

もつらり流ながすこといふこと
こころいふこといふこといふこと
あつちりつ福ふくせぬまふともくとや
かこしあつちりつ松しょうく風かぜの音ね
こころ麻あしの音ねこころいふこと
こころいふこといふこといふこと
こころいふこといふこといふこと
こころいふこといふこといふこと

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, arranged in approximately 10 horizontal lines within a rectangular border.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, arranged in approximately 10 horizontal lines within a rectangular border.

Vertical text or marginalia located on the left side of the page, outside the main text block.

續人名卷口終

あきつねのつとむり
あきつねのつとむり
あきつねのつとむり
あきつねのつとむり
あきつねのつとむり
あきつねのつとむり
あきつねのつとむり
あきつねのつとむり

及利侍法村

保福寺

信美寺

